

【横浜遊技場組合】

ホールを災害時の「防災拠点」として 《防災の日に組合員ホールで防災訓練を実施》

【概要】 横浜遊技場組合（飯島隆史組合長）傘下ホールでは、災害時には「防災拠点」として帰宅困難者へのトイレの貸出しや休憩所として開放できるよう備えており、防災の日の9月1日、防災訓練を行うとともに、お客様にミネラルウォーターや非常食の配布を行い、お客様及びホールスタッフの防災意識を高めました。



横浜遊技場組合の各ホールでは、防災グッズコーナーを設けることで、市民に備蓄の大切さを啓蒙しています。



横浜遊技場組合傘下の「東横フェスタグループ」での防災訓練の様様。ホールスタッフにも防災拠点としての意識を高めています。

※ 災害支援の取組み「災害帰宅支援ステーション」について

横浜遊技場組合で取組んでいる、災害時帰宅困難者への支援の活動は、このたび、神遊協傘下ホール全体へと、取組みの輪が大きく広がりました。



パチンコホールの多くは国道や県道などの幹線道路沿いや駅周辺に位置していることから、災害時には、帰宅困難者に水道水の提供、トイレの貸出し、道路情報の提供、また休憩所としてホールの開放を行えるよう備えています。

○県下 400 ホール（令和元年8月26日現在）が災害帰宅支援ステーションとして備えています

《災害支援の取組み「災害帰宅支援ステーション」》

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市との災害協定の締結について

（令和元年8月26日）

<http://www.kykk.com/disaster-support.html>